

市政ニュース

読書活動推進の取り組み成果 神美小学校が読書感想文全国コンクールで第1位に

市では、各学校や生涯学習の場において、さまざまな読書活動の推進に取り組んでいます。

これらの取り組みの結果、読書感想文全国コンクール(社団法人全国学校図書協議会・毎日新聞社主催)で、神美小学校が全国1位を受賞し、2月3日、東京會館(東京都千代田区)で表彰を受けました。

神美小学校受賞概要

学校・行政・地域が一体となり子どもたちの読書活動を盛り上げ、読書感想文指導に積極的に取り組んでいるさまざまな活動が評価されました。

賞名

第57回青少年読書感想文全国コンクール「読書感想文推進大賞」(小学校の部)

市の読書活動推進の取り組み

① チャレンジ! フィフティ

○ 認定証の交付

年間50冊読んだ児童(中学生は30冊)に交付



▲中貝市長へ受賞を報告する神美小学校の児童

○ 特別認定証の交付

年間200冊読んだ児童(中学生は100冊)に交付

○ 学校表彰

年度内に認定証交付を受けた児童生徒の人数の割合が、全校児童生徒数の50パーセント以上の学校を表彰

② 全校一斉読書活動の実施

③ 豊岡市推薦図書一覧の活用

④ 学校図書館ボランティアの活用

⑤ 図書館の主な読書活動推進

- ・読み聞かせ事業推進
- ・お話キャラバン隊派遣
- ・図書館ボランティア養成
- ・ブックスタート(7カ月健診時に絵本配布)

三省堂書店ブックカバーしおりへの広告掲出

豊岡のイメージ戦略(但東編)

昨年10月に三省堂書店の文庫本ブックカバーとしおりに「城崎温泉」や「コウノトリ」などの本市イメージ広告を掲出したところ、大変好評で、再度、2月の1カ月間広告を掲出しています。

今回は「チューリップまつり」など但東地域の観光素材を紹介し、本市のほのぼのとしたイメージを表現しています。



▲関東・中部・近畿・中国地方で配布しているブックカバーとしおり

「広報とよおか」が県広報コンクールで特選(第1位) 全国広報コンクールへ、広報まちづくり賞も受賞

本市の「広報とよおか」は、25日号表紙が、第59回兵庫県広報コンクール(一枚写真の部)で第1位の特選に選ばれ、2月15日に表彰を受けました。今後、県代表として、全国広報コンクールに出場します。

また、「広報とよおか」11月25日号は、(財)兵庫県市町村振興協会が県内の1市1町に贈る「広報まちづくり賞」に選ばれました。



▲特選「広報とよおか」10月25日号表紙

本市の「広報とよおか」は、平成17年の新豊岡市誕生以来毎年、県広報コンクールで何かの賞を受賞しています。この受賞を励みに、今後もより良い広報紙作りに努めます。

主な市政の動き

1月

- 16日・豊岡市民プラザが地域創造大賞受賞(表彰式)
- 27日・豊岡市「くらしの便利帳」2011発行
- 28日・まちぐるみ学校支援シンポジウム

2月

- 1日・豊岡版エコハウスモデルプラン作成
- ・大好き豊岡応援隊フェイスブックページ開設
- 2日・豊岡市豪雪災害警戒本部設置
- ・市役所現本庁舎曳初め式、曳家移転見学会(4日、6・7日)
- 3日・豊岡市豪雪災害警戒本部会議
- ・神美小学校が第57回青少年読書感想文全国コンクール「読書感想文推進大賞」受賞(表彰式)
- 6日・イナカー運行計画見直しにかかる市民説明会(21日)
- 14日・和歌山県古座川町長来訪(災害支援お礼)
- ・新潟県三条市長来訪(災害支援お礼)

市民参加の文化創造・子育て支援

豊岡市民プラザが平成23年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞

豊岡市民プラザが、平成23年度地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設に決定し、1月16日、中貝市長が、グランドアーケ半蔵門(東京都千代田区)で行われた表彰式に出席しました。

この賞は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く紹介することによ

り、公立文化施設のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。

JR豊岡駅前のアイティ(大手町)7階の空きスペースを活用して平成16年に開館した豊岡市民プラザは、まちのにぎわいづくりや市民の文化創造活動支援、子育て支援を活動の大きな柱として、市民

参加型事業を精力的に推進してきました。

今回の受賞は、その活動が高く評価されたものです。



▲表彰を受ける中貝市長

80余年の歴史を動かす大事業

市役所新庁舎建設工事・現本庁舎曳初め式および曳家移転見学会を開催



▲中貝市長と森田議長が起工ボタンを押す様子

2月2日、市役所現本庁舎曳初め式を挙行了しました。約60人が出席した式では、中貝市長と森田健治市議会議長が起工ボタンを押し、庁舎の移動を開始しました。

中貝市長は「雪の中での記念すべきスタート。北但大震災からの復興の記憶をきちんと残すことができ、本当に良かった」とあいさつしました。また、森田議長は「私自身にとっても50年間の思い出がある庁舎であり感慨深い。今後議場として活用されることもうれしい」と話しました。

現本庁舎の重量は、横綱白鵬2万人に相当する約3千トン。2日から7日(5日は除く)までの5日間で、約25メートル南へ移動しました。同期間に開催した見学会(南庁舎屋上解放を含む)には、約600人が参加し、興味深く見つめていました。



▲曳家の説明を熱心に聞く見学者

中貝市長の徒然日記 ⑤2

翼をください

2月上旬、酔っ払って帰ったある日、テレビをつけると「翼をください」が流れてきました。大好きな曲です。ところが一緒に歌い出すと、途中から歌えなくなりました。この歌は、いつもそうです。

平成16年の台風23号災害対策で、私たちは懸命に働いていました。一日も早く学校を再開したい、住宅再建をしてもらいたい、避難所を解消したい、ごみを処理したい、産

業を元に戻したい。10月末、小泉首相来訪という情報が入りました。国からの資料に、「雨の時は中止」とありました。国の局長に電話をして、「総理は濡れるのが嫌なので、こっちは、水浸しになってるんです!」「いえ、雨なら自衛隊のヘリが飛ばないということでした」

11月、参議院の災害対策特別委員会に呼ばれました。話を職員から聞いたとき、私は「こっちは復旧に忙殺されてるんだ! 尋ねたいことがある

ならこっちに来いと言うとけ!」と怒鳴りました。恐縮した参議院事務局の「ぜひ体験をお聞きしたい」との再度の依頼に、出席しました。「心は被災地とともにありたい」と思いから防災服で来た」という私の発言が、翌朝の新聞で見出しになっていました。

被災者も、職員も、被災した職員の家族も、ボランティアも、みんな必死でした。12月。コウノトリファンクラブ会長の柳生 博さんが来られて、懇親会がありました。

「この大空に翼を広げ」というところで顔がくしゃくしゃになって声にならないのです。振り向きもせずひた走りに走ってきて、ふと立ち止まったとき、抑えていたさまざまなきらいが噴き出したのかもしれない。

以来、なぜかこの歌を歌うと、途中で声途切れそうになるのです。あのころのことを思い出すのかなあ?